

スマホの光と闇を訴え

(17)が「スマホ利用の光と闇」と題して講演。4～6年の児童と保護者ら約90人が、スマホに関するルールを家庭で話し合っ決めて決めることの重要性を学んだ。

子どもとネット

子どものスマートフォン利用をテーマにした講演会が26日、築港小学校で開かれ、玉野高校生徒会長の2年大石竜輝さん(17)、会計の2年片山育吹さん

築港小で玉野高生徒会役員が講演



玉野高校生徒会の大石会長(左)と片山さんの話聞き入る築港小の児童ら

や検索、辞書として活用できることなどを挙げ、「勉強で分らない点があれば詳しい解説をすぐに探せる。勉強中はLINE(ライン)をしないといったけじめをつけるのが大事」と話した。

闇の面では、SNS(会員制交流サイト)の危険性を指摘。いじめにつながったり、フェイスブックなどにアップした写真から住所を特定される可能性があることを説明。「不正にアクセスされ、自分の顔写真が知らぬところでも使われていた人もいる」と述べた。

大石さんは「ラインの文字だけでは伝わりにくい。なるべく相手と向き合って話しよう」、片山さんは「知らない人からメッセージが届いても絶対に返信しない」と強調。

その上で「スマホは便利な半面、使い方とトラブルに巻き込まれることも。時間や使い方など正しい利用

使い方「家庭で決めて」

玉野高生徒会は今秋、県内の中高生有志AYAMAスマホサミット2017に参加。がスマホの適切な利用

を依頼した。

2人はスマホの光(良い)と闇(悪い)の部分について実例を交えて紹介。光の面で

校内でも積極的に啓発活動を実施しているのを受け、築港小が講演は、バス・電車のダイ

法を親子で考えてほしい」と訴えた。6年中島悠爾君(12)は「スマホには怖い面もあると分かった。まもる」と話した。だ持っていないけど、(近藤哲也)